

原点回帰

横浜市小学校音楽教育研究会 会長 館 雅之

今年度、後藤俊哉会長の後任として、研究会会長という大役を引き継ぎ、重責を感じとともに、本研究会のために微力ながら力を尽くす決意を新たにいたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。本来は、総会の場で、対面し、会員の皆様にご挨拶を申し上げるところでございますが、それも難しく、紙面による就任の報告になりましたことにご理解をいただければ幸いです。

さて、現在も新型コロナウイルス感染症は収束せず、学校教育そのものの在り方を問い合わせこと、とりわけ音楽科の授業においては今までにない対応を余儀なくされています。

昨年度からのこのような状況を踏まえ、私は今こそ基軸にしたい言葉があります。

それは「原点回帰」という言葉です。「原点回帰」とは、物事を始めた時に帰るという意味です。類義語に「初心にかえる」がありますが、原点回帰は単に元に戻る、スタート時に戻り、ゼロから始めるということではないと考えます。

「原点」はものごとを考えるときの出発点や基準になるポイント、「回帰」はひとまわりして元のところに戻るということです。様々な経験をしたり、体験を通して得た知識、さらに今までの知識を更新することを経たりして、原点に戻るということです。これは、最初のスタートとは違う立ち位置に戻ることを意味します。

会員の皆さんには、音楽科教育の重要性を感じ、ご自身の教育活動の核にしていることと思います。そこにはそれぞれの心地よい原体験があり、表現すること、鑑賞すること、音楽に関わること、そして、子どもと音楽活動をつくりあげることの喜びを味わってきたのではないでしょうか。

今まで歩んでこられた道を振り返って見ますと、そこには確かな轍ができていることでしょう。その轍を確かめながら、「原点」に「回帰」することで、これから音楽科教育の新たな方向性が見えてくると考えます。

さらに、本研究会におきましても、70周年記念の節目の年に当たります。研究会の長い営みを確かめ、「原点」に戻り、今後の研究会の在り方について考えることが重要でしょう。

「アフターコロナ」という言葉がありますが、これもコロナ後に今までのコロナ前に戻る

ということではないでしょう。音楽の授業においても、コロナ前に行っていたことに戻るのではなく、今試行錯誤していることを経た新たな姿が見えてくることが必要です。

時代は変化していきますが、変わらないことは「音楽ってすてきだなあ」「みんなで音楽をするって楽しいなあ」「音楽の授業が楽しみだなあ」「音楽は人間の生活には必要だなあ」ということを子どもとともに先生も感じ続けることだと思います。横浜市の音楽教育の発展、本研究会の充実した研究活動の推進のために、会員相互の力を結集していくことを願っています。